テレビのロケで、女の子の目の前で男の子がおちんちん丸出しでお姉さんに抱えられてドラム缶風呂に入れられる話

人気番組『世界の裏側でサバイバル！』

～ジャングル探検スペシャル～

テレビ画面に明るいテーマソングが流れ、スタジオのMCが元気よく叫ぶ。

「今日は超スペシャルロケ！ 人気女優の岩倉芽依さんと、子役の大人気コ

ンビ、中田佳奈ちゃんと原田風馬くんが、ジャングルを探検します！」

画面が切り替わり、緑豊かなジャングルの入り口に3人が立っている。

岩倉芽依は今旬の大人気女優、朝ドラやいろんなバラエティに引っ張りだこの21歳。

中田佳奈は天才子役として有名で今は5年生。

原田風馬は佳奈と同じドラマに出てブレイクした3年生だ。

「芽依さん、今日もよろしくお願いします！」

佳奈が明るく声をかけると、芽依が優しく頭を撫でる。

「うん、佳奈ちゃんも風馬くんも、今日はたくさん冒険しようね！」

現地のガイドさんとカメラマン、スタッフ総勢10名ほどが同行し、ロケがスタートした。

朝から3人は大はしゃぎだった。

まず最初に目に入ったのは、木の上にぶら下がる大きなバナナの房。

「わあ！ こんなにたくさん！ 採ってみようよ！」

佳奈が興奮して指差すと、風馬が「僕も！」と駆け寄る。

芽依が背伸びをしてバナナをもぎ取り、3人で分け合って皮を剥いて食べた。

「甘い！ スーパーのより全然ジューシー！」

風馬が口いっぱいに頬張りながら笑う。佳奈も「ほんとだー！」と目を細める。

次に現れたのは、色鮮やかな蝶の大群と、珍しい巨大なカブトムシ。

風馬が怖がりながらも「すげー、触ってみていい？」と手を伸ばすと、ガイドさんが毒持ってるかもしれないからダメですを促す。

佳奈は「かわいいー！ 写真撮ろう！」とスマホを構え、芽依が2人を優しく見守る。

昼過ぎには村の人々と交流した。

現地の子供たちと一緒に踊ったり、伝統的な楽器を叩いたり。

風馬も一緒に踊り、佳奈はすぐに打ち解けて大笑い。

芽依は「みんな仲良しだね」と微笑みながら、村の女性から手作りのお守りをもらった。

午後には珍しい植物や動物を観察することに。

巨大な葉っぱで雨をしのいだり、木の根元に生えたキノコをガイドさんに教えてもらったり。

雨が降り出したので、大きなドラム缶を2つ用意し、雨水をため始めた。

「これ、ろ過すれば飲めるんだって！」

芽依がフィルターを使って丁寧に水を浄化し、3人で試飲する。

「うん、普通の水と変わらない！」

風馬が目を丸くして言うと、佳奈が「本当だ！」と頷く。

日が沈み、ジャングルは一気に暗く冷え込んだ。

焚き火を囲んで竹でご飯を炊き、ヤシの実をお皿代わりに使い、みんなで「いただきます！」と手を合わせる。

「熱いけどおいしい！ ジャングル飯、おいしいね！」

風馬が頬を膨らませて食べる姿に、佳奈と芽依が笑う。

食事が終わると、気温がさらに下がった。

「寒いね……体が冷えてきた」

佳奈が少し震えながら言う。

ガイドさんが提案した。

「雨水をたくさん貯めたドラム缶がから、あれを温めて風呂にしましょう。」

風馬の顔がぱっと明るくなる。

「ドラム缶風呂！？ 入ってみたいな！」

スタッフが素早く火を起こし、ドラム缶のお湯を温め始めた。

高さ約90cm、直径60cmほどの鉄製ドラム缶。子供サイズの風馬にとってはかなり高い。

お湯が適温になると、スタッフが「できたよ！」と声を上げる。

風馬はすでに上半身を脱いで、下半身に白いバスタオルをしっかり巻いた状態で立っていた。

芽依がにこやかに近づいた。

「風馬くん、準備できた？ じゃあお風呂入れてあげる！ほら、タオル巻いてたらタオルも濡れちゃうよ？タオル取って！」

風馬は恥ずかしそうにモジモジしながら頷く。

「う、うん……」

「私が持ち上げて入れてあげるね！タオルは取って！お湯が冷めないうちに早く入ろう」

芽依の言葉に、風馬は慌てて両手でタオルを強く押さえた。

「え、えっと……まだ取らなくていいよね？ みんな見てるし……」

「大丈夫だって。ほら、男の子なんだから隠さないで！」

芽依が優しく、しかしはっきりと言いながら、風馬の腰に巻かれたタオルに手をかけようとする。

風馬は必死にタオルを押さえ、顔を真っ赤にして体をくねらせる。

「お、おちんちん見えちゃうよ……恥ずかしい……」

佳奈はドラム缶のすぐそばに立って、興味津々で風馬を見つめている。

目が輝き、口元に小さな笑みが浮かんでいる。

芽依が後ろから風馬の体を抱きかかえるようにして持ち上げ始めた。

両腕を風馬の脇の下に通し、まるでおしっこをさせるような姿勢――膝を曲げ、両足をM字に大きく開かせる形だ。

風馬の小さな体が空中に浮き上がり、タオルが緩む。

「わっ！ 芽依さん、待って！ まだ！」

風馬が慌てて両手で股間を隠そうとするが、M字開脚の姿勢でバランスが取れず、手が上手く届かない。

タオルがずるずると滑り落ちかける。

「佳奈ちゃん、タオル取ってくれる？」

芽依が笑いながら言うと、佳奈が素早く手を伸ばし、風馬の腰に残っていた白いバスタオルをぱっと引き抜いた。

その瞬間――

風馬のおちんちんが完全に丸出しになった。